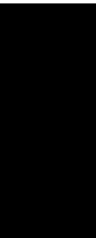


魅力あふれる産業でにぎわう活力あるまち



私たちが目指すまち

「魅力あふれる産業でにぎわう活力あるまち」

1. 趣旨

国内産業は、リーマンショック後の世界経済の混迷、長期にわたるデフレ経済、近年の急激な円高進行などの影響から、非常に厳しい経営状況下に置かれている。加えて先の未曾有の大震災・原発事故は、経済環境への影響のみならず、私たちに社会の価値観の転換をも促す試練を与えようとしている。例えば「量から質・付加価値へ、モノからソフト・サービスへ、競争から連携・協働へ、そして原発から自然エネルギーへ」などである。

私たちは科学技術の進歩により産業をおこして経済成長をはかり、豊かな社会を築いてきた。この基本的な方向性は変わらないものの、社会の価値観の揺らぎ・多様化は、今回の産業政策・成長戦略を提案する上でも重要な検討の視点になっている。

市内産業は、その目標指標ともいうべき法人市民税の激減、製造品出荷額の半減、農林畜産業の減退、および中心市街地の衰退などの問題に直面している。また、基軸産業の創出、豊富な観光資源の活用、自然エネルギー産業への取組みなどの重要課題が山積している。

これらの問題や課題を、市・事業者・産業支援機関・市民がそれぞれの役割分担のなかで連携して解決し、「魅力あふれる産業でにぎわう活力あるまち」の実現を目指していきたい。

2. 現状

- (1) 市の税収(平成 22 年度約 887 億円)における法人市民税(約 59 億円)は、製造業と商業が大部分を占めるが、近年急激に減少している。製造業の指標である製造品出荷額(平成 21 年度 4,106 億円)はこの 10 年間で半減し、非常に厳しい状況にある。
- (2) かつての「織物のまち」のような、市を象徴する「基軸産業」「八王子ブランド」の創出が期待されるが道半ばである。「ものづくり」では、大企業の製造拠点が中国など新興国に移転し、中小企業は大きな影響を受けている。高尾山、浅川など豊かな自然、八王子の歴史・文化は、産業資源として十分に活かされているとはいえない。
- (3) JR 八王子駅を中心とする市街地では、南口駅前再開発はおこなわれたが、いまだ大型商業施設の撤退や地元商店の空き店舗化が続き、北口の一部では人通りも減っている。
- (4) 都内最大の農業産出額・耕地面積を誇り、地産地消や安全安心な食への需要も高まっているが、農業はその従事者の減少、耕地面積の減少に歯止めがかけられていない。
- (5) 人口推計では 20 年後の 65 歳以上の老年人口は、市人口の 30%にも達することから、予防を前提とした健康増進の関心が高まっており、産業化の余地がある。

3. あるべき姿

- (1) 製造、情報通信サービス、商業、観光、農林畜産、健康増進、環境などの各産業が、それぞれに堅実な発展を遂げ、雇用を創出・増大させ、より健全な市財政基盤の上に活力あるまちが構築されている。
- (2) 八王子の強みを活かした特色ある産業(八王子ブランド)および時代の転換に対応できる産業(基軸産業)が創出され、魅力あふれる産業に成長している。
- (3) 約 19,000 社の市内中小企業を特色ある強い企業へと育成・支援し、日本のものづくりを支える先端技術産業の集積地としての地歩を築いている。
- (4) 中心市街地の再生・活性化が進められ、観光客も市内に還流している。
- (5) 大規模な情報通信センター(ソフト開発センター、データセンター)、商業施設、物流センターおよびコンベンションの開催などが誘致されている。
- (6) 「ものづくり」技術のソフトウェア化、観光・商業などをとおした市民の「おもてなしの心」による顧客満足度の向上、ブランド化された付加価値の高い農林畜産物の産出、先端のシステムによる健康増進都市の創設などへと、政策の質的転換がはかられている。

4. 解決すべき課題

- (1) 戦略的政策推進
 - ① それぞれの産業分野の政策を方向付けする戦略的領域の区分化
 - ② 産業分野を「基盤・成長・新規・戦略」などに位置付けたメリハリある政策の実施
- (2) 目標管理
 - ① 産業ごとの施策達成のための目標指標の明確化
 - ② 目標指標を設定するための現状の実態調査および統計化
- (3) 人材育成
 - ① 産業分野ごとのリーダーの育成・確保
 - ② 市内中小企業への人材教育の支援
- (4) 連携体制
 - ① 産業競争力強化のための、市、事業者、産業振興支援機関などの連携強化
 - ② 地勢的優位性、豊かな人的市民リソース、市域の大学パワーの活かし方の検討
- (5) 新産業
 - ① 新しい産業創出の視点からの「自然エネルギー産業」への取組みの検討
 - ② 観光、農林、自然など八王子の資源や特性を活かした新商品、新事業の創出

新基本構想・基本計画素案策定「市民会議」施策提言シート

シート番号

5-1

1 提言件名(内容)		2 担当分科会		3 達成時期			
戦略的政策推進による産業の創出・再生(産業全般)		産業					
4 現状	No	(1)提案事項		(2)担い手	(3)優先度	(4)目標など	(5)提案実現への課題
		<p>(1)平成22年度の本市の市税収入約887億円に占める法人市民税収額は約59億円で、近年急激に減少している。</p> <p>(2)かつての「織物のまち」のような、市を象徴する「新しい基軸産業」「八王子ブランド」の創出、育成が期待されるが、道半ばである。</p> <p>(3)長期にわたる景気の低迷などから市内企業は非常に厳しい経営環境下にある。</p> <p>(4)今回の未曾有の大震災・原発事故からの教訓や、現状の厳しい経済情勢などから本市の産業政策は大きな転換期にある。</p>	1	<p>予算配分や人員体制など、産業分野ごとにメリハリをつけた政策を推進するための、産業分野別の戦略的領域区分化をおこなう。</p> <p>基盤産業分野(製造業・商業・流通業・農林業)では、雇用の確保や安定的税収の確保をはかる。</p> <p>成長産業分野(情報通信サービス業)では、ソフトやデザイン開発、コスト面で競争力を確保する。</p> <p>新規産業分野(医療・介護・環境)では、ターゲットとなる分野を定め、積極的に施策を展開する。</p> <p>戦略的産業分野(観光)では、八王子市が有する豊富な資源を戦略的に活用する。</p>	市	最優先	産業分野別の政策を第1期までに策定
5 あるべき姿	課題解決のための具体的提案	2	自然エネルギー産業など、10年後の八王子を象徴する代表候補産業の導入や支援を検討するための協議機関を設置する。	市・事業者	最優先	第1期をめどに検討	自然エネルギー協議会や民間プロジェクトなど、新産業振興のための情報収集
		3	産業政策の目標管理のための指標について検討、設定する。	市	最優先	平成25年度	産業分野ごとの適切な目標の設定および管理
		4	産業振興支援機関がおこなう施策・事業への助成強化により、地場産業や市内中小企業の活性化を支援する。	市・商工会議所・産業振興支援機関	最優先	上記1の策定後策定までは現行制度の積極的運用をはかる。	現状の支援活動の検証
		5	道路交通網や強固な地盤などの地勢的優位性を活かし、製造・商業・物流センターなど、企業の拠点を積極的に誘致する。	市	優先	第1期をめどに候補地、候補となる企業などの選定	トップセールスを含む誘致推進体制の強化および優遇策の再検討
6 解決すべき課題	6	市・商工会議所・産業振興支援機関・事業者による人材育成を強化する。	市・商工会議所・産業振興支援機関・事業者	優先	第1期前半に既存事業の強化をはかる	はちおうじ未来塾・リーダー育成塾など、サイバーシルクロード八王子が実施する人材育成事業などの強化	
	7	市域23大学、約12万人の学生・教職員という人的資源を活かし、バイオエネルギー、コミュニティービジネスなどの分野において、産学連携による新たな産業を創出する。	市・事業者・大学・短大・高専	優先	平成25年度	大学における研究成果を産業分野に移転するためのTAMA-TLOやTAMA協会など、産業支援機関のさらなる活用	
8 備考(関連する他分科会の項目等)		目標値では、計画期間を第1期(平成25～27年度)、第2期(平成28～30年度)、第3期(平成31～34年度)に分けて表記している。 環境分科会6-1					

新基本構想・基本計画素案策定「市民会議」施策提言シート

シート番号

5-2

1 提言件名(内容)		2 担当分科会		3 達成時期				
製造業の活性化		産業						
4 現状	<p>(1)平成22年度の製造業の法人市民税法人税割課税額は約16億円で、法人市民税法人税割全体の課税額約45億円の約36%を占めるが、製造品出荷額は、平成9年の9,570億円から、平成21年には4,106億円へと半減している。</p> <p>(2)市は「ものづくりのまち」としての政策を推進してきたが、長期の国内経済の低迷・急激な円高の進行・新興国の台頭などから、今後ものづくりが市産業の中核となり得るか不明である。</p> <p>(3)製造業の事業所数は従業員数300人以下の中小企業が大部分を占め、これまで市内にあった大企業の製造拠点は中国など海外に移転し、現在では、事業所は研究開発拠点へと変貌している。</p>	7	No	(1)提案事項	(2)担い手	(3)優先度	(4)目標など	(5)提案実現への課題
			1	ハード中心からソフトウェアとデザインで付加価値を高め、ものづくりの技術転換を助成・支援する。	市・事業者・産業振興支援機関	最優先	第1期中に具体的施策を検討し着手開始	成功事例・モデル事業の例示など、技術転換のためのノウハウの共有化
			2	既存の産業振興支援機関の見直しとあり方を検討し、地場産業・市内中小企業の活性化支援施策を実施する。	市・産業振興支援機関	最優先	新基本計画初年度から検討組織を立ち上げ、実質的検討開始	現状の支援活動の検証
			3	雇用を確保・増加させるため、大規模製造拠点・研究開発センター・本社および支社の機能などを誘致するための推進体制を強化する。	市	最優先	第1期をめどに候補地、候補となる業種、企業の選定	トップセールスを含む誘致推進体制の強化および優遇策の拡充
			4	企業の実状を把握し、企業トップの意見・企業の最前線の声を行政施策に活かすしくみを構築し、行政の支援のあり方を検討する。	市・事業者	最優先	平成25年度	行政と企業との定例的コミュニケーションの場の設置
			5	八王子に企業立地することの魅力をPRする。	市	最優先	平成25年度	誘致推進体制の強化および優遇策の再検討
			6	市内企業における優秀な大学生や留学生など、優秀な人材を確保し、雇用する。	市・大学	段階的实施	平成25年度から大学などへの働きかけ	市域大学・市内企業との連携
			7	八王子ものづくり万博、ものづくりコンペなど、本市のものづくりの優位性を市場にPRするイベントや展示会を開催する。	市・商工会議所・事業者・産業振興支援機関	段階的实施	新基本計画期間内の開催	市場のニーズや動向の把握およびそれらを反映した企画立案
			8	事業者と市民、市場のニーズの発掘や情報の共有・交換の場となる「人材・情報交流サロン」を設置する。	市・商工会議所・産業振興支援機関	優先	第1期に着手	サロンの運営・管理方法
			8 備考(関連する他分科会の項目等)	目標値では、計画期間を第1期(平成25～27年度)、第2期(平成28～30年度)、第3期(平成31～34年度)に分けて表記している。				

課題解決のための具体的提案

新基本構想・基本計画素案策定「市民会議」施策提言シート

シート番号

5-3

1 提言件名(内容)		2 担当分科会		3 達成時期			
情報通信サービス産業の育成		産業					
4 現状	No	(1) 提案事項	(2) 担い手	(3) 優先度	(4) 目標など	(5) 提案実現への課題	
		<p>(1) 情報通信サービス業を成長領域と位置付け、平成13年から「首都圏情報産業特区・八王子」構想の推進によりその振興をはかってきた。 (2) 平成13年に市内に140社程度存在した情報サービス企業は年々漸減しており、規模的にも従業員4名前後の小企業が多くを占める。 (3) 事業構造的にも、それらの企業はソフト開発作業の元請と下請という関係にあり、規模的にも内容的にも解決すべき課題の多い分野である。</p>	1	ソフトウェア成長領域に特化した振興助成拠点や強いコスト競争力(人件費コスト)をもつ拠点、海外移転とは一線を画した、日本が得意とする家電、車、デジタル機器などの組込みソフトの開発拠点など、国内でしか開発できない技術領域を担う拠点として、ソフトウェア開発パークの整備を支援する。	市・事業者・産業振興支援機関	最優先	第1期をめどに候補地・候補となる業種・企業の選定
5 あるべき姿	課題解決のための具体的提案	2	道路交通網や強固な地盤などの地勢的優位性や豊富な人的資源を活かし、企業のデータセンターやソフト開発センターを誘致する。	市	最優先	平成25年度	トップセールスを含む誘致推進体制の強化および優遇策の拡充
		3	企業OB技術者、大学院生、外国人技術者などの活用や雇用を促進するための環境を整備する。	市・都・国・事業者・産業振興支援機関	最優先	平成25年度	労働環境の整備
		4	市内の情報産業サービス企業の活性化のための具体的支援施策を強化する。	市・事業者・産業振興支援機関	最優先	平成25年度	現状と課題の検証
		5	既存企業とのコミュニケーション・協調連携を強化する。	市・事業者	優先	平成25年度	事業者の協同組合など、既存組織の活性化
6 解決すべき課題	6	市域大学など先端的研究組織との連携を強化する。	市・大学	優先	平成25年度	市のリーダーシップによる産学公の連携の強化	
	8 備考(関連する他分科会の項目等)		目標値では、計画期間を第1期(平成25～27年度)、第2期(平成28～30年度)、第3期(平成31～34年度)に分けて表記している。				

新基本構想・基本計画素案策定「市民会議」施策提言シート

シート番号 5-4

1 提言件名(内容)		2 担当分科会		3 達成時期				
高尾山登山客の分散化と市内への還流		産業						
4 現状	<p>(1)都心近くにありながら希少動植物などの豊かな自然と富士山が眺望できる美しい景観を理由にミシュランガイドの三ツ星に選ばれ、高尾山人気は急上昇している。</p> <p>(2)登山客が高尾山口駅周辺に過度に集中するため、自然環境の悪化や顧客満足度の低下が心配されている。</p> <p>(3)登山客の滞留・他の観光地や中心市街地への還流も少ないため、地元消費につながっていない。</p> <p>(4)購買力の高い外国人登山客の増加が予想されるが、その対応策が質・量とも不十分である。</p> <p>(5)駐車場の数が足りないため、甲州街道を渋滞させている。</p>	No	(1)提案事項	(2)担い手	(3)優先度	(4)目標など	(5)提案実現への課題	
		1	<p>登山客の還流方法-1(レンタル自転車の活用)</p> <p>市内の放置自転車を再生し、無料または安価なレンタル自転車を各地に配置する。</p> <p>南浅川右岸のサイクリングロードを延伸し、国道20号線(高尾山口～高尾駅)に自転車専用レーンを整備する。</p>	市・自転車関連市民団体 市・国	最優先	システムづくり 2年後 導入 5年後	エコ都市を目指す政策としての認知国との調整、市営駐輪場の整備	
		2	<p>登山客の還流方法-2(臨時バスの運行)</p> <p>行楽シーズンや週末に高尾山口駅前から八王子城跡経由で夕やけ小やけふれあいの里行きや、多摩御陵経由で中心市街地に臨時バスを運行させ、これらの施設の周知を拡充する。</p> <p>バス運賃の割引制度の導入を市が支援する。</p>	バス事業者 市	最優先	1年目:1路線、土日祝日のみ(京王八王子駅行) 3年目までに2路線追加、土日祝日(他の観光地循環)	市からの補助金と路線の採算性 バス会社の路線政策との整合性	
		7						
5 あるべき姿	<p>(1)登山客数は増加傾向にあるが、分散化により自然・景観そして歴史遺産は良好に保たれ、車の渋滞も解消されている。</p> <p>(2)登山客は環境に優しいレンタル自転車や電気バスで市内各地の観光地や商店街に還流し、中心市街地をはじめ、市内各地でにぎわいが復活し、消費が促進されている。</p> <p>(3)高尾山山麓(高尾山口駅周辺から高尾駅周辺)は自然と調和したリゾートとして、高尾の里・温泉・道の駅・ホテルなどがつくられ、にぎわい、消費が促進されている。</p> <p>(4)外国人登山客は市民のおもてなしの心に触れて満足し、高尾山は「富士山が一番美しく見える山」として世界的に有名になっている。登山後、彼らの市内の消費行動により、八王子の経済が活性化している。</p>	課題解決のための具体的提案	3	<p>高尾山山麓の自然と調和した開発と消費の促進</p> <p>高尾の里建設および展示物・情報案内など、ソフト面の充実をはかる。</p> <p>温泉などの健康増進施設、飲食店、ショッピングモールなどの施設を設置する。</p> <p>駐車場の高層化を推進する。</p> <p>観光案内所を設置し、外国語ガイドを配置する。</p>	市 民間事業者 観光協会 国際協会・市民・学生	最優先	2年:高尾の里 5年:新規計画する施設	ショッピングモールの採算性 ボランティアガイドの確保
			4	<p>登山客の分散化</p> <p>JR高尾駅北口に案内所を設置し、外国語ガイドを配置する。</p> <p>陣馬高原下・夕やけ小やけふれあいの里・小仏口・蛇滝口に看板を設置。ガイドを配置してパンフレットを配布する。</p> <p>各登山口に有料トイレを設置する。</p> <p>入山料の導入を検討する。</p>	国際協会・市民・学生・観光協会 市・都・観光協会 市・都・国	最優先	1～3年で実施 5年:入山料導入	有料に対する登山客の理解 都・国との調整、入山料に対する登山客の理解
6 解決すべき課題	<p>(1)高尾山登山客の市内各地への還流</p> <p>(2)高尾山山麓の自然と調和した開発と消費促進</p> <p>(3)過度に集中している登山客の分散化</p> <p>(4)駐車場不足と渋滞の緩和</p> <p>(5)外国人登山客への対応の拡充</p>		5	<p>道の駅およびパーク＆ライド型駐車場の設置による、高尾山口付近の渋滞解消と観光客の消費を促進</p> <p>道の駅では八王子野菜・八王子ブランド品・レストランで集客し、地元商店街の活性化につなげる。</p> <p>高尾駅南口町田街道脇の都有地に平日は通勤者用、週末は高尾山客用の駐車場を設置する。</p>	市・都・国・市内農家 市・都・観光協会・鉄道事業者	最優先	5年	経営主体の確保、地元商店街との調整 町田街道の渋滞防止策の検討、利用者の確保と採算性の維持
8 備考(関連する他分科会の項目等)		環境分科会6-6						

新基本構想・基本計画素案策定「市民会議」施策提言シート

シート番号 5-5

1 提言件名(内容)		2 担当分科会		3 達成時期			
高尾山以外の観光地や魅力の発掘による観光と商業の活性化		産業					
4 現状	八王子市は人口58万人の大都市であるが豊かな自然に囲まれ歴史的・文化的資源にも恵まれている。都心からの距離は自然や独自の文化を維持するには近すぎず、客を引き寄せるには遠すぎないという絶妙な位置に存在する。また、中央線や京王線の沿線は文化度の高い地域であり、観光・商業の観点から魅力的な市場がすぐ近くにあるといえる。その一方で、その資源や魅力が高尾山以外の活性化に活かされていない。 (1)観光・商業の情報が届いていない。 (2)市域が広いので観光スポットが散在して、アクセスも悪い。 (3)市外に知られたブランド・店舗・産品が少ない。 (4)八王子まつりやいちよう祭りに続く大きなイベントが少ない。 (5)八王子の観光開発の司令塔や組織がない。	No	(1)提案事項	(2)担い手	(3)優先度	(4)目標など	(5)提案実現への課題
		1	浅川を“桜咲く憩いの場”“観光スポット”として整備 浅川右岸に桜を植え、散歩やサイクリングなど、健康維持・憩いの場として整備する。 土手上的の車両を規制し、自転車専用レーンとランニングロードを分離するほか、休憩所を整備する。 河川敷を整備して、景観を維持する。 浅川を活用したイベントを開催する。	市民・国・市	最優先	1～5年	国との調整
		2	イベントの誘致 自転車ロードレースを開催する。 スポーツ祭東京2013・東京多摩国体(平成25年)に続いて、東京五輪50年記念大会を平成26年に開催する。いちよう並木とアップダウンのコースは人と自転車が共存する街のイメージを定着させる。 高尾・陣馬山岳マラソンを開催する。 オリンパスホール・都立産業交流拠点・タヤけ小やけふれあいの里などの施設と連携して、国内・国際会議などのコンベンションに活用する。	都・市・競技関係団体・民間事業者・市民・学生・大学	最優先	1～5年	誘致の主体となる事業者
		3	八王子駅改札口前に観光案内所を設置 観光客に市内観光コースを紹介する。 ボランティア市民ガイド・外国語ガイドを配置する。	市・観光協会・商工会議所 市民・学生・国際協会	最優先	3年	案内所の設置場所についてのRとの調整、設置経費・運営経費の負担、運営形態
		4	タヤけ小やけふれあいの里の充実(宿泊設備・イベントホール・野外コンサート設備の整備) 陣馬～景信～高尾縦走の登山基地化を推進する。 自然や環境を意識したコンベンションを誘致し、都の産業交流拠点の機能を補完する。 森林浴を主体とする健康増進プログラムの実施を推進する。 野外ライブコンサートを実施する。 キャンプなどの滞在型野外活動のための施設を拡充する。 グリーンツーリズムを実践する農業体験活動の場として施設を整備し、観光事業化を展開する。	市・観光協会 大学 病院 市・観光協会・民間事業者	最優先	1～5年	
		5	産学公と市民が一体となった観光振興組織の創設 市民と学生が活動の主体となり、全市民・学生・留学生在が協働して「おもてなしの心」で観光客に対応し、八王子の魅力伝える。 民間事業者(商店街など)・市・八王子商工会議所は活動の場と資金の提供など、運営主体となる。 事業主体を明確化し、継続的運営をはかる。	市民・学生・民間事業者・市・商工会議所	最優先	3～5年	運営経費の負担
5 あるべき姿	(1)多くの魅力スポットがネットワーク化され、さまざまな手段で広く情報を発信し続けている。その結果、「大自然に囲まれた歴史と文化の快適都市八王子」として、多くの人に認められている。 (2)スポーツ・芸術・学術・健康などの新しい大小のイベントが開催され、それらにかかわる新ビジネスが起り、多くの人が集まることで街はにぎわいにあふれている。 (3)八王子ブランド戦略によって開発されたブランドや名産品が評価され、新しい八王子みやげやキャラクターが人気を得て、東京駅や国際空港で売られている。 (4)産学公と市民による観光振興のための統合組織が設置され、指導力を強力に発揮して、効果的に施策が展開されている。						
6 解決すべき課題	(1)八王子を活性化させる観光資源や文化的魅力の発掘・ネットワーク化と、広く対外的な情報発信 (2)高尾山に続く自然型観光地の設置 (3)大型イベントの誘致による集客力を活かした新ビジネスの創出 (4)全市民が「おもてなしの心」をもって観光客を歓迎する機運の醸成						
8 備考(関連する他分科会の項目等)		教育・学習分科会3-13					

新基本構想・基本計画素案策定「市民会議」施策提言シート

シート番号 5-6

1 提言件名(内容)		中心市街地活性化		2 担当分科会	産業			3 達成時期
4 現状		No	(1)提案事項	(2)担い手	(3)優先度	(4)目標など	(5)提案実現への課題	
		5 あるべき姿	7 課題解決のための具体的提案	1	商店街の活性化策コンテストによる支援 店主や店主の創意工夫ある取組みを評価する。 商店街としてのまとまりと相互の連携を進める。 評価点の高い商店街を重点的に支援する。 支援策の効果を検証する。	商店街・商工会 議所・市	最優先	
2	歩行者や自転車を利用しやすい商店街づくり 歩きやすい歩道を整備し、一定時間無料の駐輪場を増やす。 無料または安価なレンタル自転車を整備する。 魅力的な商店街や店舗、周辺のスポットを発掘し、相互に連携 させて集客を目指す。			国・都・市・商 店街 自転車関連 事業者・商店 街・市 商店街・個店	最優先		自転車運転者への安全 教育の普及	
6 解決すべき課題		3	産業(商業)フェスティバルの開催 八王子ファッション、高級伝統品、高級和菓子、八王子新名物 など、八王子ブランドを開発し、情報を発信する。 八王子B級グルメコンテストを開催する。 ゆるキャラなどの新たなキャラクターを公募する。	市民・学生・商 店街・商工会議 所・市	最優先			
		4	芸術の街づくり コンサートホールを活かして街の文化度を高めるとともに、街の 集客力を向上させる。 カサドチェロコンクールにより、「音楽の街八王子」のさらなる推 進をはかる。 芸術の香り高いまちづくりを推進し、街の雰囲気合ったレスト ランなどの飲食店の出店につなげる。 美術館のネットワーク化による集客力の向上を中心市街地の活 性化につなげる。 チケットの半券を用いた買い物、飲食の割引制度を導入する。	音楽関係団体・ 商店街・民間事 業者・市	最優先		チケットの半券を利用した 割引制度加盟店の拡充	
		5	JR八王子駅改札口前などに観光案内所を兼ねた「なんでも案内 所」の設置 市内観光・魅力スポット・商店・レストランなどを案内する。 携帯情報端末を活用して市内案内をおこなう。	市民・学生、 NPO・商店街・ 商工会議所・ 市・観光協会	最優先			
		6	空き店舗対策 大学生の若い感性で、喫茶店などの開店から運営までをおこな うチャレンジショップとして活用する。 NPOなどが月替わりの実験店や同好会サロンなどを運営し、人 が集まりにぎやかになることを目指す。	市民・学生・商 店街・NPO・商 工会議所・市	最優先		空き店舗の現状に対する所 有者の認識	
		7	地域振興券の発行	商店街・商工会 議所・市	最優先		市内商店街全体の意識 の統一	
8 備考(関連する他分科会の項目等)								

新基本構想・基本計画素案策定「市民会議」施策提言シート

シート番号

5-7

1 提言件名(内容)		2 担当分科会		3 達成時期			
農林畜産業を維持発展させる総合的施策と支援体制の設置		産業					
4 現状	7 課題解決のための具体的提案	(1) 提案事項		(2) 担い手	(3) 優先度	(4) 目標など	(5) 提案実現への課題
		<p>八王子の農林畜産業は、道の駅など一部には成功例もみられるが、総体的には就農者の高齢化や低所得、周囲の宅地化等による農地・放牧地などの減少や不保全の増加など、衰退傾向にあり、厳しい状況にある。</p>	<p>農林畜産業の共通事項：NRT推進室の設置による行政の横断的な組織改革(NRT推進室とは、農業(N)林業(R)畜産業(T)を推進する市の組織)</p> <p>設置 実態調査と戦略的な企画機能を持った専任部署(NRT推進室)の創設と市民や外部有識者による戦略的企画会議(NPO)を設置する。</p> <p>構成および機能 NRT推進室は、農林畜産業の維持発展に向けたビジョンの策定から具現化まで行政・農協・市民・外部有識者で組織された戦略的な機能を持った専任部署(現状の行政の組織や産学官公市民の垣根を越えた、あるべき姿を提言できる組織とし、活動と成果を真摯に評価する機能をもつ組織)</p> <p>所管分掌 NRT推進室の主な機能は農林畜産業に関する次の事項を所掌する。 品目・生産量・作付面積(飼育頭数)・反収・就農人口・その他の実態調査および統計化 農地の集約化および遊休農地の解消 関連情報および人材情報(援農ボランティア等)の情報収集と提供するしくみの構築 定年帰農者への支援 各種施策が展開されるための委員会などの運営 農林畜産業および同業に付随した、ブランド食材を使ったレストランや牧場での乳製品の販売・天然水のボトル販売などの新規事業(新たな需要の創出)の創出と育成および人材の確保・支援 新たな森林事業により鳥獣害を軽減させる提案 長期展望として人と自然(山・動物・植物)が共存できる取組みの提案</p>	<p>市・農業協同組合・農業委員会・市民など</p>	<p>最優先</p>	<p>短期：民間の英知を集めた市長直轄の専任部署(NPO含む)が設立され、戦略企画会議が運営されている。</p> <p>中長期：戦略的提案がされている。行政の目玉組織として全国に名を馳せている。</p>	<p>・施策を達成するための若手人材の確保 ・運営予算の確保 ・関連部署からの大幅な権限移譲 ・決定事項に関する組織横断的な協力体制</p>
<p>5 あるべき姿</p> <p>(1)八王子の農林畜産業は健全で安定した経営がおこなわれ、後継者が育成され、事業収益も増加して新たな雇用の場が確保されている。 (2)『農業経営基盤強化促進法』等を活用した取組みが積極的に検討され、モデル事業として提案され実用化されている。 (3)農地・牧場・森林と住宅地との間の線引きが明確におこなわれ、家畜の糞尿や鳴声、鳥獣害などが解消されている。</p>	<p>1</p>						
<p>6 解決すべき課題</p> <p>(1)高齢化などによる農林畜産関係の就労人口の減少に歯止めをかけ、生産者を増やすためのしくみづくり (2)農・牧地減少にブレーキをかけ、土地の集約や有効活用するためのしくみづくり (3)農林畜産業の採算性を向上させ事業として成り立たせるしくみづくり (4)道の駅などにならった新たな流通のしくみづくり</p>							
8 備考(関連する他分科会の項目等)							

新基本構想・基本計画素案策定「市民会議」施策提言シート

1 提言件名(内容)		2 担当分科会		シット番号		5 - 8	
農業が維持発展するための効率的かつ安定的経営体質の改善		産業				3 達成時期	
4 現状	7 課題解決のための具体的提案	No	(1)提案事項	(2)担い手	(3)優先度	(4)目標など	(5)提案実現への課題
		<p>(1) 農業者の高齢化が進み、将来を担う新規就農人口が減り、後継者も確保できず農業者全体が減少している。</p> <p>(2) 農地面積の減少に歯止めがかけていない。</p> <p>(3) 農地面積のうち、農業に活用されていない耕作放棄地や不耕地が年々増加している。</p> <p>(4) 『農業経営基盤強化促進法』などの活用が不十分である。</p> <p>(5) 一方で、「道の駅」の成功もあり、地産地消や安全で安心な食の需要が増加している。</p>	1	農業に関わる各種情報を整理し、実態や状況をリアルタイムに共有するための専門的なSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)や自動集約システムの構築とデータベースが活用できる運営と支援 ・農地使用実態の常時掌握 ・農家個別経営管理項目の設定と収集および分析	NRT推進室	最優先	短期:現状の実態把握と基本データベースの構築・管理項目の設定・サンプル農家での試行 中長期:データベースが運用され、必要な情報が提供できている。さらに市内の農家の現状がリアルタイムで把握でき、アドバイスや支援など農業政策策定に活用されている。
5 あるべき姿	7 課題解決のための具体的提案	2	ボランティアやNPO法人を活用した人材管理・情報の一元化	NRT推進室	最優先	短期:人材の実態把握と見える化をおこない、NRT人材コーディネーターを配置する。 中長期:安定的に人材が確保され、活用されている。	・NRTコーディネーターの育成 ・人材登録制度の周知と啓発 ・援農ボランティアの確保と待遇の改善
		3	遊休農地活用制度(農業生産法人化など)の確立と運用に関わる指導とサポート	市・農業委員会・農業協同組合	最優先	短期:遊休農地の実態を把握し、必要な法律や条例を整備する。 中長期:遊休農地が平成24年対比で半減している。	農業振興のための法律に基づく条例制定
		4	意欲ある多様な農業従事者の育成 ・「はちおうじ農業塾」の充実と就業支援体制の強化 ・NRT推進室と農業協同組合で農業従事者教育実行組織を創設・運営 ・実技は現場、実地研修を主体とし、モデル農家は地域外も対象とする。 ・大学や市の施設などで理論、経営などを学ぶ。 ・農業技術習得者に技能(級)認定制度を設ける。	NRT推進室・農業協同組合	最優先	短期:現状の農家に対する教育(事例研究など)の場づくり・認定制度確立など 中長期:産品毎研究会ができ、農業従事者レベルが日本一になっている。	・農業協同組合の人材育成機能の強化 ・研究機能の充実
5 あるべき姿	7 課題解決のための具体的提案	5	休耕地・耕作放棄地を債権化し、市が保証して近隣農家や農業生産法人などへの貸出しを促進する。	NRT推進室・農業協同組合・農業委員会・農家	優先	短期:農地の用途変更や休耕・耕作放棄地の減少・貸出地が確保できている。 中長期:農地の利用率の維持向上・農業関係雇用の増加と安定化・高齢・零細農家の収入に寄与	・貸借のための制度づくり ・初期投資の支援(無償融資など) ・生産物の販売のしくみ

新基本構想・基本計画素案策定「市民会議」施策提言シート

1 提言件名(内容)		2 担当分科会		シート番号		5 - 8	
農業が維持発展するための効率的かつ安定的経営体質の改善		産業				3 達成時期	
6 解決すべき課題	7 課題解決のための具体的提案	No	(1)提案事項	(2)担い手	(3)優先度	(4)目標など	(5)提案実現への課題
		6	農地の確保・保全をするため、農地の用途変更を制限し、休耕・耕作放棄地に対してペナルティを設定する。	市・農業委員会・農業協同組合	最優先	短期：農地の用途変更や休耕・耕作放棄地の減少・貸出地が確保できている。 中長期：農地の利用率の維持向上・農業関係雇用の増加と安定化・高齢・零細農家の収入に寄与	・市条例制定 ・農地地権者への理解
		7	農家が不用となった農機具を集積して一般農家や市民農園の利用者・体験農場などに貸出しできるしくみづくり	NRT推進室・農業協同組合・農家・NPO	最優先	短期：農機具の貸出しに協力できる農家のリストアップとデータベース化 中長期：農機具の貸出しやメンテナンスを含めた維持管理ができるNPOを設立し遊休、不用機具の有効活用がおこなわれている。	・貸出し用農機具の保管整備体制 ・農家と市民農園のニーズの把握
		8	流通多様化の検討	NRT推進室・農業協同組合・農家・NPO	最優先	短期：新たな流通体制が検討され組織化されて動き出している。 中長期：流通体制が確立し効率的運営がおこなわれている。	・新たな市場の調査と開拓
8 備考(関連する他分科会の項目等)							

新基本構想・基本計画素案策定「市民会議」施策提言シート

シート番号 5-9

1 提言件名(内容)		2 担当分科会		産業			3 達成時期	
特色ある畜産物の発掘・育成と、畜産業の発展		産業						
4 現状	(1)八王子市における畜産業の実態、統計データが整備されていない。 (2)将来に向けた基本計画・基本方針が明確に示されていない。 (3)粗飼料の自給率が低い。 (4)付加価値の高い畜産物が少ない。 (5)宅地化が進み、糞尿・臭気・鳴声などの対応策など、畜産業を継続するための環境が整っていない。 (6)畜産廃棄物処理のための施設が整備されていない。	No	(1)提案事項	(2)担い手	(3)優先度	(4)目標など	(5)提案実現への課題	
		7 課題解決のための具体的提案	1	市街化調整区域を活用した畜産業を集約化し、畜産団地を設置する。	NRT推進室・畜産業者	最優先	短期:候補地の選定 中長期:集約地区が確保され集約化されている。	・採石場跡地などの集約地の確保 ・集約地近隣の住民理解 ・処理施設などの予算確保
		2	放牧場を新たに発掘し、牧場等観光を取り込んだ経営をおこなえるよう、インフラ整備や規制緩和等を含め施設の設置などについて支援・指導する。	NRT推進室・畜産業者	優先	短期:畜産団地の候補地が選定され、事業者から経営計画が提出されている。 中長期:大規模牧場に付随して観光を取込んだ施設が完成し、運営されている。	・候補地の選定と住民理解 ・牧場設置事業者の支援 ・事業のための優遇制度づくり	
5 あるべき姿	(1)安全で安心な畜産物(乳製品や食肉など)がブランド化され、付加価値の高い加工製品(6次産業化)が提供でき、畜産の生産量・収益が増加している。 (2)畜産振興のための土地利用や環境整備(すみ分け)ができています。 (3)粗飼料の確保がはかられている。 (4)将来を担う就業人口が増加し、畜産業を継続できる体制が整備されている。	3	宅地と畜産業のすみ分け、および糞尿などの処理と再利用のための施策づくりと施設設置の支援をおこなう。	NRT推進室・畜産業者・学識経験者	最優先	短期:畜産団地に畜産業が移り、その中の処理施設で糞尿が処理され、肥料などに変わっている。 中長期:再生産された肥料は近隣の農家で使用され、八王子野菜の生育に寄与している。	・採石場跡地の確保 ・集約地の住民理解 ・処理施設などの予算確保 ・農家ででの肥料使用ルールの確立	
		4	新種・改良種・飼育方法・飼料の選別と確保、防疫、経営などの情報共有、指導による畜産業の確保拡大をはかるために畜産業者・市・学識経験者などによる畜産協議会を創設する。	NRT推進室・畜産業者・学識経験者	最優先	短期:適宜情報が共有化され、最適な活用が検討されている。 中長期:高品質で安全な畜産品が安定して供給されている。畜産業者の経営が安定している。	学識経験者の確保	
6 解決すべき課題	(1)ボトムラインにある生産者および生産量の維持 (2)地域住民からの苦情を低減するため、住民と家畜のすみ分けのしくみづくり (3)畜産ビジネス(6次産業を含む)を軌道に乗せ、ブランド化を進めるしくみづくり	5	八王子特産品の選定とテレビ広告や有名料理番組・有名シェフを活用した料理の創作とそれらのブランド化をはかるためのコンペやイベントを開催し、市幹部のトップセールスや観光大使によるPR活動をおこない、ブランド化を促進する。	NRT推進室・畜産業者	最優先	短期:ブランド化候補が絞り込まれている。 中長期:畜産ブランド8品目が発売され市場に出回って認知されている。	ブランド品の知名度アップ	
		6	放射線や疫病などへの監視と対応ルールを策定する。	行政・NRT推進室・畜産業者	最優先	地域・産品を網羅して定期的にデータが採取・公表され、安全・安心が可視化されている。	・計測方法の作成 ・計測技術者の確保 ・国・都・他市町村の計測データの共有化	
8 備考(関連する他分科会の項目等)								

新基本構想・基本計画素案策定「市民会議」施策提言シート

シート番号 5-10

1 提言件名(内容)		2 担当分科会		3 達成時期			
森林の機能を活用した地域林業の再生		産業					
4 現状	No	(1)提案事項		(2)担い手	(3)優先度	(4)目標など	(5)提案実現への課題
		(1)八王子の林業に関する基本的な統計データがなく、また中長期的な視点での基本方針や計画が示されていない。 (2)市面積の42%を森林が占めるが、木材価格の低迷により、林業従事者が減少している。 (3)山林所有者の境界確定ができていない。 (4)戦後、植林されたスギ・ヒノキが収穫期になっているが手をつけられていない。 (5)大量の花粉の発生源となっている。	1	山林の新たな利用として、八王子の湧水を発掘し、ブランドの使用権貸与や条件付き市税免除・販売促進協力などで事業化を支援する。	NRT推進室・森林組合・事業者	最優先	短期：湧水の確保とブランド化・事業者の選定と事業計画の策定 中長期：ブランドの定着と販売促進・収益の向上
5 あるべき姿	7	2	エネルギー資源など、新たな木材利用に関する検討組織を設置する。	NRT推進室	最優先	短期：有識者による検討の開始 中期：施策の提言 長期：新たなしくみの構築、木材の新たな利活用	有識者の確保
		3	森林管理NPOの創設支援 ・森林の現状把握と木材生産・防災・癒やしなどの目的別の植林と保全管理計画を総合的に策定し、NPOによる活動を支援する。	NRT推進室・森林組合・NPO	最優先	短期：NPOの創設と森林の維持管理の受託	・地権者・森林組合の協力 ・他地区のNPOなどの情報交換・相互協力
6 解決すべき課題	7	4	環境関連CSRを活用する企業に対し、森と里山の貸出しなどの運用をおこなうNPO等を支援する。	NRT推進室・森林組合・NPO	優先	短期：貸出し用の森または里山の選定 中長期：企業への貸出が8社以上	・地権者の協力 ・企業誘致のための戦略づくり ・森や里山管理のしくみづくり
		5	間伐材などの利用促進を支援 ・間伐樹種の種類・量・地域・発生時期など引き渡し条件を明確にして、事業者に譲渡または売却する。 ・落ち葉などの農業用肥料としての活用を促進する。	所有者・森林組合・NPO・地権者・事業者	最優先	短期：発生した材の売却実現	・所有者の協力 ・間伐材の用途開発と活用の支援 ・農家での肥料使用の啓発と普及
		6	森林所有権債権化システムの構築と推進および森林計画策定の支援 ・所有者毎に分散している森林を債権化し、管理を一本化することで、補助金や支援を分散せず、効率的に運営するしくみをつくる。所有者は債権を持つことで配当などで利益を得る。 ・保全管理と収穫期にあるスギ・ヒノキの収穫と販売 ・林業採算性向上のため、低コストで収穫可能な場所での木材用樹木の植林と造林を推進する。	所有者・行政・森林組合・NPO	最優先	短期：モデル地区の設定 中長期：森林の包括的管理と利益配当	市または市に替わる組織による債権担保
7	害をおよぼす鳥獣の農地への侵入抑制 スギ・ヒノキの植林地を広葉樹林化へ樹種変更するための推進計画の促進を支援する。 ・都・市保有林や隣接する不採算森林を、鳥獣の生息場所になる樹木として選定し、鳥獣の農地への侵入を抑制する。	所有者・行政・森林組合・NPO	最優先	短期：植える樹木と自然林化必要地区を選定し、植替えを開始している。 中期：植え替えが進み、餌となる樹木が成長して徐々に鳥獣害が減少している。 長期：森林の大部分が広葉樹林に変わり、餌の樹木が多数自生して鳥獣害がほとんどなくなっている。	・有識者や関係者による市外を含む広域にわたる調査・計画 ・隣接する市町村との協議 ・地権者の同意		
8 備考(関連する他分科会の項目等)		環境分科会6-5					

新基本構想・基本計画素案策定「市民会議」施策提言シート

シート番号 5-11

1 提言件名(内容)		2 担当分科会		3 達成時期			
農林業・畜産業の活用による新事業の創出		産業					
4 現状		No	(1)提案事項	(2)担い手	(3)優先度	(4)目標など	(5)提案実現への課題
		1	<p>間伐材を利用したニュービジネスの創出支援 ・以下の事業例などのニュービジネスの創出を支援する。 事業例 高効率ストーブの設置工事・ペレット製造・燃料宅配・ストーブ料理レシビと食材をセットにしたリースビジネスなど、ペレットストーブのシステム事業 チップ化した木材やスモーカーとチップと食材をセットにしたキットの販売など、桜材等を利用した燻製キット事業 食器・位牌・ノベルティーなど、圧縮木材を利用した、軽く・強く・自然と人にやさしい高級什器の製造販売事業</p>	NRT推進室・NPO・大学	段階的実施	短期：NPOの設置と事業の検討	・有識者の確保 ・間伐材利用のための技術開発および設備開発 ・産学連携による新技術開発
5 あるべき姿	課題解決のための具体的提案	7	<p>2 新食材による6次産業の育成事業 ・廃校や採石場跡を利用して、ワニやダチョウ・アワビなどを飼育し、八王子特産の食材として販売するほか、レストランの定番料理として定着をはかる。</p>	NRT推進室・民間事業者・大学	優先	短期：モデル事業の開始 中長期：八王子ブランドの確立	・専門飼育者や研究者の育成 ・専門店や有名シェフの協力 ・飼育場の確保と流通の整備 ・産学連携による新技術開発 ・特区の活用
		3	<p>3 トレーラーハウスの活用によるセカンドライフ事業の支援 ・森林空間の活用方法として、トレーラーハウスを用いたセカンドライフ事業を支援する。 ・生活に必要なインフラ整備や地域住民と同じサービスを提供する。 ・トレーラーハウスの住民は積極的に地域とかかわれるしくみとして、現地での交流会や自然教室の開催などに携わり、地域住民との親交を促進する。</p>	NRT推進室・地権者	最優先	短期：候補地の選定と試験運用の開始	・候補地の選定と住民理解 ・インフラ整備のための初期費用の負担 ・受益者負担に基づく、住民税などの税に代わる負担金の賦課徴収
		4	<p>4 有名シェフによる八王子レストランの開設 ・有名シェフとのコラボによる店舗の開設、地場産の農畜産物・湧水を使用したオリジナルレシビの開発などをおこなう事業者への場所の提供・税制優遇・ブランド名の使用権貸与やPR活動などの支援をおこなう。</p>	NRT推進室・民間事業者	最優先	短期：八王子産品によるレストランの開設	・有名シェフの協力 ・民間事業者の確保
		5	<p>5 桑茶・大葉生産などを事業化するためのしくみの整備(その他の候補品目：栗・小松菜・梅・ブルーベリー・エスカルゴ・観賞用昆虫・観賞魚・ニジマス・ヤマメ・岩魚・山菜・そば・ソフトクリーム・ジャム・ジュース・絹織物など)</p>	NRT推進室・民間事業者・大学	最優先	短期：事業化に向けた戦略の構築と実施 中長期：8件以上の新規事業化	・事業化対象品の創出 ・産学連携による新技術開発
6 解決すべき課題		6	<p>6 地場産の農畜産物を活かすため、学校給食などへの使用により地産地消を促進する。 ・野菜や肉などの食材のほか、間伐材を利用した箸・食器・トレーなどの食器類の使用や、食材である農畜産物の生産農地などでの実習・体験をととして、地場産を知る場として活用する。</p>	NRT推進室・市・農畜産事業者・民間事業者・NPO	最優先	短期：地場産食材の安定供給とモデル校拡大 中長期：市内全校での実施	・地場産食材の安定供給 ・農業者の協力による適正価格の維持 ・教育委員会・PTA・保健所などの理解と協力
		8 備考(関連する他分科会の項目等)					

新基本構想・基本計画素案策定「市民会議」施策提言シート

シート番号 5-12

1 提言件名(内容)		健康増進産業の創出		2 担当分科会		産業		3 達成時期	
4 現状	No	(1)提案事項		(2)担い手	(3)優先度	(4)目標など	(5)提案実現への課題		
		<p>(1)健康増進に関する意識が高まり、身体によかれと高額な健康器具・健康食品やサプリメントなどを購入するなど積極的な行動が顕著になっている。</p> <p>(2)一方で、体系的なシステムやプログラムが不足しているために、健康増進は自己流でおこなわれており、個人差が出ている。</p> <p>(3)個々の人にあった最適な健康増進プログラムの提供や指導などの供給が追いつかず、健康増進を積極的に産業化する余地がある。</p>	1	担当窓口の統合 健康増進に関わる カウンセリング 健康プログラムの提供 健康教育 調査・分析などの業務の担当窓口を統合する。		市	段階的实施	市内に設置	既に指導相談をおこなっている機関との調整
5 取り組む課題	2	健康増進指導者(専門家)の育成 ・健康増進アドバイザー教育機関を設立する。 ・健康増進アドバイザー資格を創設し、社会的な信頼を確立する。		市・大学	段階的实施	市内に設置	教育カリキュラムの策定 ・教育機関の認定		
	3	健康増進アドバイザーによる指導の事業化 ・健康増進プログラムのシステム化、体系化の確立 ・個々人にあったプログラムによる実施・チェック・改善(PDCA)指導の実施		市・医師・保健師・栄養士・スポーツトレーナー・大学	段階的实施	資格者1万人と個別プログラム実施	既存の関連職種との調整・カウンセリング・実効性の高いプログラム・マンツーマンによるPDCAの実現		
	4	健康増進の普及啓発事業の実施 ・自然を利用した健康プログラムをおこなうイベントなどの開催 ・保養地宿泊型のプログラムを提供し、市外からも集客する。 ・学校や団体、企業での講習会を実施する。 ・常時相談機関を設置する。		市・民間事業者・大学	段階的实施	市外からの利用者の受入れ	実効性の高いプログラムの提供と施設の確保		
6 解決すべき課題	5	産学協同による健康調査および研究 ・最先端の健康増進プログラムを開発・体系化する。		市・医師・医療機関・大学	段階的实施	プログラムの商品化と稼働	産学の連携		
	<p>(1)健康増進プログラムを体系的に開発し、個々人にあったプログラムを提供できる体制の整備</p> <p>(2)専門家による有料指導の社会的な認知と、賛同する利用者の増加</p> <p>(3)健康増進は、健康福祉として市から受けるのではなく、市民が積極的に自助努力で手に入れるという意識の浸透</p> <p>(4)健康増進関連産業に関わる資格制度および教育制度の創設と、職業訓練制度の実施</p>								
8 備考(関連する他分科会の項目等)				生活・共助分科会2-23					

新基本構想・基本計画素案策定「市民会議」施策提言シート

シート番号 5-13

1 提言件名(内容)		2 担当分科会		産業			3 達成時期
八王子の電気は八王子で創ろう！「八チ電プロジェクト」							
4 現状	7 課題解決のための具体的提案	No	(1)提案事項	(2)担い手	(3)優先度	(4)目標など	(5)提案実現への課題
		1	<p>電力会社「八王子電力」(第3セクター)の設立 市内での電気の地産池消を目指し、電気を発蓄売買するPPSが市民ファンド「八チ電」債を発行して資金を確保し、市と民間の協力により設立。さらに、事業の拡大により家庭・企業に再生可能エネルギー導入のための助成、補助、融資をおこなう。同時に新電力会社設立のための法的整備を進める。</p>	官民合弁の電力会社「八王子電力」(第3セクター)・市・民間企業・市民・東京電力	段階的实施	年度ごとの「八王子電力」との契約者数の目標値を設定 平成62年までに市内の全家庭・企業との契約を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーだけであらゆる電力需要をまかなうのが困難 電力事業の独占状態を変えなければならぬ。 『電気事業法』の改正 送電網の東京電力から借受け
		2	<p>八王子の地形的特性を活かした発電 ソーラー(太陽光) 市の日照時間は平成22年で約2,000時間と全国平均よりやや長いので、家庭・企業でのパネル設置に助成するとともに休耕地や遊休地・川べりに大規模ソーラーを導入する。 小水力・小風力 汚水処理施設に発電機を設けてモデルケースとし、以後、河川・小川・湧水を使った発電に拡大。さらに上下水道にも設置する。風力は高速道路・幹線道路・線路のそばに小型風力発電機を設け、車がおこす風を利用して発電する。 バイオマス 年間に出るごみと資源物の総量は平成23年度見込で約17万トンあり、これを熱エネルギーへと転換していく。さらに、間伐材・廃材・残渣・尿尿・剪定枝・自然のごみ・生ごみなどを電力へ有効活用する。 再生可能エネルギーによる発電を研究する機関や関連企業を新エネルギー特区を設けて優遇施策をおこなうことで誘致し、通信産業・精密機器製造業など、関連する既存の市内中小企業の活性化につなげる。 設置後のメンテナンスなど電力にかかわる技術を持つ人材を育成すべく、専門学校の設立を促し、卒業生を八チ電や周辺企業での雇用につなげる。 家庭、企業、コミュニティで自然エネルギーを導入を促すための法的整備を進める。</p>	八王子電力・研究機関・大学・専門学校・自然エネルギー企業・ベンチャー企業・市民・市	最優先	<p>平成32年までに市内の半数の家庭・企業の屋根にパネルの設置 新規マンション・工場・公共施設の屋上に設置を義務付け 平成32年までに全ての川に20基設置 湧水発電を各所に10か所設置 全ての汚水処理施設に併設 風力を平成32年までに主な幹線道路に小型風車各100基を設置 平成32年までに市内すべての焼却所にバイオマス発電所を併設 バイオマス用のごみを捨てる専用のごみ袋の作成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ソーラー(太陽光) 曇天・雨天・夜間時の発電 効果的な集光 耕地地へのソーラー設置の適法化 小水力・小風力 水量による発電能力差 河川の程度の落差 河川への発電機設置の合法化 高速道路上に設置する風車の視認性および安全性の確保 効果的な設置場所の探索 バイオマス 運搬コスト 相互補完のための手段の検討
3	<p>各所で発電した電力の蓄電 「新エネルギー特区」を活用した優遇施策により、大規模蓄電施設や研究機関、企業を誘致する。また、ガソリン車を電気自動車に転換するEVコンバージョン技術を開発し、はちバス・公用車をこれに移行する。</p>	八王子電力・研究機関・自然エネルギー企業・ベンチャー・市民・市	最優先	<p>平成27年までに新エネルギー特区の設置 平成32年までに大規模蓄電施設設置 市内の車の半数を蓄電可能自動車にする。エレクトリックスタンドも街角につくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 電圧の安定化と停電の阻止 電気自動車の増加による電気需要の増加 		
5 取り組み							
<p>(1)化石燃料など、有限資源の涸渇危機および東日本大震災による原子力エネルギーの安全性 (2)独・伊での「脱原発」選択など、地球規模での原発に頼らない政策の移行により原発の代替エネルギーとして、再生可能エネルギーが注目されている。 (3)電力市場での発電は寡占、送電は独占されている。 (4)特定規模電気事業者(PPS)が登場し、PPSを採用して節約する自治体も出てきている。 (5)地形的特性を活かして発電に取り組む自治体が増えている。 (6)『再生可能エネルギー特別措置法』が成立した。 (7)市民の電気に対する意識は大きく変化し、省エネ・節電の意識が生活に浸透している。 (8)省エネ家電の性能が向上している。 (9)ソーラー設置費用はコストダウンしている。 (10)本市には、遊休地・休耕地、川・湧水、車輛・幹線道路・路線・日照時間・ごみが多い。</p>							
<p>(1)電力会社「八王子電力(通称八チ電)」が活躍し、八王子市内で発電・蓄電・売買電事業を広く展開されている。 (2)家庭や企業では発電元が選択でき、再生可能エネルギーで自家発電した電力を売るなど、電気を双方向でやり取りできるスマートグリッド化が進んでいる。 (3)新エネルギー特区の設置により、研究機関や実験施設、関連企業が積極的に誘致され、特区には工場や事業所が集積している。 (4)新エネルギー産業が雇用を創出している。 (5)電気関連事業に携わる人材を育成するための専門学校が設立され、若者が就学している。 (6)自家発電に取り組めるよう、市や八チ電から家庭・企業に助成や融資が積極的におこなわれている。 (7)節電・省エネの心構えが市民に広く根付いている。 (8)「電力自給率100%を目指すまち」「街灯の明かりに誇りをもてるまち」を目指し、全市を挙げて取り組んでいる。</p>							

新基本構想・基本計画素案策定「市民会議」施策提言シート

シート番号 5-13

1 提言件名(内容)		八王子の電気は八王子で創ろう！「ハチ電プロジェクト」		2 担当分科会			産業			3 達成時期	
6 解決すべき課題	7 課題解決のための具体的提案	No	(1)提案事項	(2)担い手	(3)優先度	(4)目標など	(5)提案実現への課題				
		4	スマートグリッドを促進する売買電の実施 ハチ電は再生可能エネルギーによる電力を家庭や企業に売る一方、家庭・企業で発電された電気を買うことで、利用者は、新エネ・化石燃料・原子力など、発電元が選択可能になる。	八王子電力・研究機関・自然エネルギー企業・ベンチャー・市民・市	段階的实施	平成62年までに市内の全家庭・企業をスマートグリッド化	・再生可能エネルギーによる電気の価格競争力および利用者の確保 ・電力事業の一層の自由化				
		5	電気使用量の見える化による省エネ産業化の推進 家庭、企業、施設などの電力消費量を見えるようにすることを義務化して、測定装置の開発と設置が産業化するとともに、省エネ製品開発への助成をおこなう。	八王子電力・研究機関・大学&専門学校・自然エネルギー企業・市	優先	平成32年までにスマートメーター設置義務を法制化 八王子産省エネ製品を全国展開し、「ハチ電」ブランドとして販売	・義務化することへの市民理解 ・省エネ製品の特産品とする困難性 ・「省エネといえば八王子」というイメージの醸成				
		6	電力ミュージアム・コンソーシアムの創設 電気アドバイザーが常駐する「ハチ電ミュージアム」を開設し、市民に電気や賢い省エネ術について説明・助言をおこなう機関も創設する。	八王子電力・研究機関・大学&専門学校・自然エネルギー企業・市	段階的实施	平成32年までに「ハチ電ミュージアム」の創設 電力コンソーシアムの創設	・「八王子電力」の実績が成功事例として評価された後に実施				
8 備考(関連する他分科会の項目等)		環境分科会6-1									

「ハチ電プロジェクト」概念図

